

クリスマス豪雪・・・・・・

12月24日から降り続いた雪は、まる2日間止むことなく、優に80センチを超え、建物、農作物に甚大な被害をもたらした。

3年前の豪雨、2年続きの異常早魃^{かんばつ}で、天変地異の感あり。
乱開発、酸性雨、温暖化・・・・。

枚挙にいとまがない。

そしてカメムシの大発生。この虫の大量発生は大雪の前兆とか。
当たってか、当たらずか。今冬の雪と寒さはひとしおであった。



水がほしかった歴史の 瀬戸用水



社会の変化に対応

近年、農村の生活様式が急激に変化しているのに対して、生活雑排水、し尿浄化槽の排水をすべて用水路に放出するという水環境が現状のままになっています。

それでも適当に雨がふり、水田に水を満たしている間はさほど問題にされませんでした。が、昨年、一昨年と二年連続の異常渇水による旱魃で、河川（用水路）周辺の住民から悪臭の苦情が出始めました。そこで、いよいよ水対策の大切さを人々が認識し、ひいては「瀬戸用水」を守ることの重要性が取り上げられることになったのです。

瀬戸用水は、宮妻峡の下流にある瀬戸堰堤から、水沢地区内に流れる大切な水源です。

私たちの祖先が水不足にたいへん苦労したことはよく知られています。

今から355年前、当時水沢村の庄屋であった辻久善という人が、総代5人と相談し村人たちと力を合わせて瀬戸から水を引いた話は有名です。

その功績を歌や踊りによって後世に伝えるべく生まれた「お諏訪踊り」は、四日市市の無形文化財に指定され、今日でも立派な郷土芸能として引き継がれています。

水があって当然の生活に慣れてしまっている私たちですが、人口の増加や、生活様式の変化などからどんどん悪くなる水環境をもう一度見直す時期が来ているようです。

再出発

瀬戸水系の組織

水沢地区への大切な水の確保・管理は、昔から当時の水



連合自治会による瀬戸用水の調査

水利組合から

利用組合へ

こうした事情から平成元年ころから、瀬戸水系の組織について、地区連合自治会や土地改良区等で再検討されてきました。

その結果、今年三月一日から「瀬戸用水利用組合」として再出発することになりました。

組合事業の目的は、単に灌漑用水の確保にとどまらず、農業用水路の水質汚濁防止を中心とする、安全な水による生活環境の保全をめざしています。

関係者の負担と

協力費で運営

新しく生まれ変わる「瀬戸水系利用組合」は名称の通り瀬戸水系に係わる水田耕作者と同用水、用水路の利用等、関係する住民によって組織し、理事十二名、代議員十五名制によって運営されることになっています。

また、運営資金については、水田耕作面積割、戸数割の組合費と、その他店舗、事業所、企業などに協力費をお願いし、



各事業には国、県、市の補助金を充てる予定です。

なお、対象となる水田の面積は、約五十ヘクタール、戸数四六〇戸、約五〇の協力企業等となっており、今年十二月に八年度分を納入することとなっています。

すいざわ

マップ作成

水沢地区地域社会づくり推進委員会では、平成六年度に郷土の歴史や文化掘り起こしを行い冊子「すいざわの史跡」を発行し全戸配布しました。

今回、第二弾「すいざわのイラストマップ」を発行しました。

民俗を始め、史跡・名所・景勝地などがカラーマップにわかりやすく描いてあります。

水沢を訪れる人の格好の資料となるばかりでなく、地元住民にとっても地域を見直す手頃な資料といえます。親子で地元の史跡巡りはどうですか。



ホッタに藪 三本松町 清水こうさん 89歳

こんど、薬師さんが新しいお堂をたてるじゃろ、あつこのとこにたんほがあつてな、ちいしゃいじぶんからおどうのまわりでようあすんだりしたもんや。

お堂のなかは薄くろうてな、女の人の長い髪の毛が上からだらーあんと下げてあつて、なにやらここちが悪かったな。

戸の間からこわごわそおつとのぞいたことあつたな。

その横がホッタ口藪やつた。昔は日んなかでも夏になると虫が木や草の間を飛びあらいとつたな。藪やで木や草がいっぱいじゃし、池の下じゃつたでな湿めだしがでとつたんじゃな。なぜやら、毎年ぎょうさんあつたな。

藪ん中がぼーと明るいようなぐらいいもあつたな。

台風で木が折れてお堂の屋根が壊れた時に藪の木も切って立て替えたんやつたかな。

今は道もついて、昔みたいに田の畦つとていかんでもようなつたがな。木切ったりもしとるし田や畑の消毒で昔ほどは池の淵でもおらんやろな。

あんだけぎょうさんのホッタ口見せてやりたいぐらいや。

星が降るみたいやつたでな。

輝いていますこの人

西條町 豊田宗浩さん

クラシック音楽と聞いただけで、肌合わないとか、聞く気にならないという方もあると思いますが、豊田さんの場合は、中学の担任の先生が、音楽の先生で「楽器ができるわけでもないし、声もこんなだけ、本当に音楽が好きで、時間の許す限りいい音楽を聴いてもらおうと思う」と言われ、交響曲から歌曲まで、主にロマン派のベートーベンやシューベルトをたっぷり聞かせてくれたことが、今の音楽好きになったきっかけだそうです。

学生のころは男性合唱団、今は四日市シンフォニックコーラスの一員として毎週土曜日には、文化会館まで車を飛ばして練習に出かけています。「ドレミファソラシドやオタマジャクシが全然わからなくても、ドミソと三人の声が寄れば、そこに美しいハ



市民オペラに出演する豊田さん



写真左

歴史散歩

巡見街道

巡見街道は江戸時代に、幕府の巡見使が通った道のことでも今も街道名として北勢地方だけは、残っている。

亀山の茶屋町（現在の東町）で東海道と分かれ、鈴鹿山脈に平行して北上し、県の北端員弁郡古田村（現在藤原町）に至るまで、県内路程約60kmさらに関ヶ原まで延びて中仙道と連絡する。

この街道は、東海道、中仙道をつなぐ幹線であり、一方鈴鹿山脈から発する各河川に沿う東西の道路を連絡する道として、重要であった。しかし他の街道と異なり平素大通行のないこの道路は、特に巡見使のおおがかりな通行が往來の住民に強い印象を与えたことが、巡見街道の名をとどめることになったのではないだろうか。

巡見街道と呼ばれたのはいつ頃から明確ではないが、19世紀初め文化年間に、巡見街道の名が各所に用いられている。

巡見使の編成は正副使3名、それぞれ35名の一行のほか人馬を使用するので百名を超える大部隊となって、將軍の代替わり毎に諸国の政情、政道の得失、民間の風俗を査察して幕政の参考とし、災害・凶荒などの実状調査などもおこなった。



四ツ谷町の巡見道

田耕作者だけで瀬戸用水は守られてきました。



水沢ミニ情報

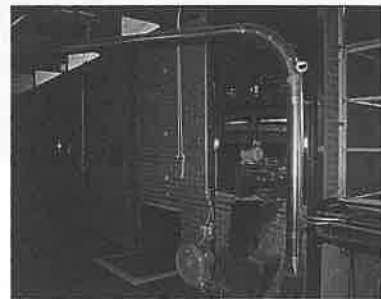
てん茶工場

でざる

お茶を食べると健康維持に良いことが知られるようになってきました。

そこで（農）すいざわ茶生産組合（組合員二一名）は、農

業生産体制強化総合推進対策事業によって摘採期間の調整、食べるお茶づくりなどの



宮妻は今

「きらの里」

宮妻地区は、県の「快適農村モデル地区」に指定された。現在推進委員会も設置され、総会開催にむけて準備を進めている。

すいざわの恵まれた自然を

期待等を担って東町に本格的なてん茶工場を建設、本年度より生産を開始する。

最大限に生かし、十年、二十年先をみすえた、ソフトな開発を進めるべく、住民それぞれが、夢を出し合いマップづくりに励んでいる。

その中で生まれた愛称が「きらの里」

住んで「いいとこや」訪れて「またいきたいな」と思える村づくりを目指している。

態のような気がする。

住専の処理には予算が付くが福祉予算は切り捨てられる。予算がないから施設・設備が整わないので地元の学校や保育園に入れないと言うのではなんとも悲しい状態である。

障害があれば当たり前のことでも障害があれば当たり前とはいかないのが今の日本である。

水沢に生まれ、水沢で生活しているならば、水沢の保育園、学校にいけるようになることが障害を持つ子の親達の共通の願いだと思う。

そのためには当然、地域の人々の理解も必要となってくる。情緒障害や肢体障害をもつ者が一般の健全な人と一緒に生活できる社会が、やってくるのを心から願っている。

加藤

不要花の処理に

朗報

かねてより、墓地の不要花の処理に困っていた中谷自治会では、もらい受けたヒューム管を利用して、穴をあけ、鉄筋でさな板を作り、燃えやすいように工夫改良した焼却炉を完成させた。役員が作業中彼岸の中日で墓参りに訪れた人も、今まで野ざらしだったのがサッパリして喜ばれた。

無縁の碑完成



各地の墓地で、縁故者不明の墓碑にはその扱いに困惑している現状だが、このほど北起墓地管理組合では、墓地内の抜根整地工事の機会に十数基の無縁の墓碑を一方所に集めて整理し「無縁の碑」を総工費百万円で建立し、去る三月八日供養をした。

生活改善運動

ご寄付ありがとうございました

ありがとうございました

水沢地区社協では、地区の方々から寄せられた「生活改善運動」の寄付金などを、町民運動会や地区文化祭などの地区行事に、また青少年健全育成事業や地域の環境づくりなど、広く有意義に活用させていただきます。

平成七年度は十八名の方々から総額四十五万円を寄付していただきました。ここに厚くお礼申しあげます。

今後とも「生活改善運動」などに温かいご協力をよろしくお願いします。

十月一日以降ご寄付いただいたのは、つぎの方々です。

- 清水 俊一様（西條町）
- 豊田 一之様（谷町）
- 森田 治久様（本町）
- 神戸 正光様（水沢野田町）
- 森 祐司様（本町）
- 森 孝夫様（本町）
- 清水 松夫様（三本松町）
- 森 教雄様（水沢野田町）
- 清水 正茂様（三本松町）
- 萩村 信一様（東町）
- 安田 敦子様（東町）
- 加藤 里見様（水沢野田町）



悲惨な戦争の映像がテレビから流れてくる。実況中継などもあつたりする。それはあたたかも、アクション映画の続きのように映し出される。

昨年が戦後五〇年だと言つて騒いだところで「戦争を知らない大人たち」の時代だから、戦争の実感が無いのはおかたがないが、今更ながら日本は平和な国なんだなと思ってしまう。

最近、日本では、高齢化が進み途中から障害がでたり、生来、障害をもって生まれた人に対する人に対して理解が深まっている。

地域の中で

しかし、障害を持つ人にとって、今の日本社会はまだ快適とはいえない。肢体の不自由な人は、バスに乗るにも、電車に乗るにも人の助けがいる。そして、それが当たり前のように思われている。しかし、施設・器械さえ整

っていれば自分の力で行動できる人も沢山いるのである。

一口に、障害をもつ人といっても千差万別だから、簡単にすませるわけにはいかないが、少なくともやらなければならぬことは、結構多いということである。

アメリカでは膨大な軍備を

し、立派な市民ドームとかも作ったりする国なのである。それなのにどうして身近な、公共施設の整備が進まないのだろうか。

特に学校は、障害のある児童・生徒（特に肢体障害者）にとって施設の改善が、一部を除きほとんど手つかずの状